

単 元 名	Speaking Plus	配当時間	5 ～ 14時間
単元の目標	(1) 生活における各場面において、適切な表現を用いて積極的に対応しようとする。 (2) 場面に応じた適切な表現で話しかけたり、応対したりすることができる。 (3) いろいろな慣用表現や場面に特有な表現の意味と機能、対話におけるマナーを理解することができる。		

本単元では、様々な会話の場面を学習して、その場面に特有な表現に習熟させたい。そして、ただ知識として覚えさせるのではなく、実際に使う練習を通して「話すこと」に対する意欲を高めたい。

場面に応じた対話をしよう。

SP1(1) 電話で申し出たり、伝言をたのんだりする表現を知り、練習する。

評 電話の応答で、申し出たり、伝言をたのんだりすることができる。  
(観察)

SP1(2) ペアでモデル対話の一部をかえて対話をする。

Speaking Test 電話での対話のguided conversationを行う。

SP2(1) 食卓でものをすすめる表現を知り、練習する。

評 食事の時、人にものをすすめたり、すすめられて応じたりすることができる。  
(発表、観察)

SP2(2) ペアでモデル対話の一部をかえて対話をする。

SP3(1) 乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりする表現を知り、練習する。

評 目的地までの電車やバスでの行き方を尋ねたり、教えたりすることができる。  
(発表、観察)

SP3(2) ペアで作の道案内スキットを発表する。

Speaking Test 指示された場所への道を探ねたり、教えたりするテストを行う。

SP4(1) 買い物をしたり、申し出たりする表現を知り、練習する。

評 英語で買い物をすることができる。  
(発表、観察)

SP4(2) ペアでモデル対話の一部をかえて対話をする。

Speaking Test 買い物場面での面接テストを受ける。

SP5(1) 病院で、身体の不調をうったえる表現を知り、練習する。

評 病院の診察で用いられる表現を理解し、自分の身体の不調についてうったえることができる。  
(発表、観察)

SP5(2) ペアでモデル対話の一部をかえて対話をする。

Speaking Test 医者と患者のguided conversationを行う。

- ・対話練習の相手
- ・教科書以外の電話特有表現の紹介
- ・自作会話文づくりのアドバイス
- ・発表に対するコメント
- ・生徒との対話で、生徒からの電話に不在であることを伝え、メッセージを受け取る面接官
- ・会話文づくりのアドバイス
- ・発表に対するコメント
- ・生徒の発表の評価
- ・J T E とのロールプレイ
- ・対話練習の相手
- ・スキットづくりの支援と評価
- ・尋ねられた場所を教えたり、道を探ねたりする面接官
- ・J T E とのロールプレイ
- ・対話練習の相手
- ・発表に対するコメント
- ・店員となって、生徒が指示どおりに買い物ができるかどうかをチェックする。
- ・J T E とのロールプレイ
- ・対話練習の相手
- ・スキットのアドバイスとチェック
- ・評価とアドバイス

- では、余裕があれば教科書に出ているもの以外の電話特有の表現も紹介しておきたい。
- のSpeaking Testにおいては全員に課題を与えておき、数人のグループを別室に入れて行う。
- ではTool Boxの表現も用いて、ペアや4・5人のグループでもてなす側と客に分かれて対話を練習し、グループのオリジナルスキットを作ることでもある。
- の買い物の場面はSPとしては初出であるが、Book 1のUnit 5「ハンバーガーショップで」で学習している。
- のSpeaking Testでは、生徒にお金と買い物リストを渡してA L Tが店員をしている店で買い物をさせる。
- のSpeaking TestではA L Tと1対1で、あるいは生徒ペアでguided conversationを行うこともできる。

